

## 京都海洋生物談話会・例会記録（2000-2002）

※ 1991-1999 の記録は Argonauta no. 1 を参照

2000

- 1.23 異なる採餌様式を持つアクキガイ類 2 種間での餌処理効率の比較 石田惣  
石垣島名蔵川河口干潟の腹足類相、1989&1998 大垣俊一
- 5.14 モクズガニの生態学はどこまで進んだか 小林哲  
パナマとフロリダでのシオマネキ類の調査報告 和田恵次
- 9.17 クモガニ類のデコレーティングに性選択は関係するか？ーヒラワタクズガニの  
場合 佐藤ミチコ  
殻上年輪とメスの体内精莢の研究利用：イシマキガイの河川遡上と繁殖生態に  
ついて 繁宮悠介
- 11.19 オハグログキとケガキ、田辺湾岸の 10 年変動 大垣俊一  
盗み寄生リスクによって変動するシマレイシガイダマシの採餌戦略 石田惣  
白浜町番所崎におけるウニ類の分布 長行司大也・石田惣・小林孝行

2001

- 5.20 オーストラリアの海岸生物紹介 福井康雄  
田辺湾におけるマガキの変動と「1990 年問題」 大垣俊一

2002

- 2.24 穿孔形状から推定したアクキガイ類の餌占有者の入れ替わり頻度 石田惣  
1940 年代以降の田辺湾貝類記録 大垣俊一

## 談話会例会発表 Abstract 抜粋 その 3（2000-2002）

※ 1991-1999 の記録は Argonauta no. 1, 2 を参照

2000.1.23 「石垣島名蔵川河口干潟の腹足類相、1989&1998」 大垣俊一

石垣島の名蔵川河口干潟で、同一方法による腹足類相の調査を期間を隔てて行い、結果を比較した。1989 年と 1998 年の 2 回、約 1.8ha 内 470 ポイントで行った調査で合計 22 種の表在性巻貝が記録され、このうち 6 種が有意な分布拡大、2 種は有意な縮小傾向を示した。増加した 6 種中 4 種は高位分布ないし泥地性種として知られ、減少した 2 種は開放海岸にも出現する種である。出現種を地理的分布により 'tropical'（奄美以南）と 'non-tropical'、および open coast 出現種と lagoon 内・泥地性種に区分し、累積区数を検討した結果、両年間で lagoon・泥地性種の有意な増加を認めた。これらの